

第26回
FDフォーラム
報告集

第4分科会

これからの大学と大学教職員に求められる課題

報告者

飯塚 まり 氏 同志社大学大学院 ビジネス研究科 教授

谷本 寛治 氏 早稲田大学 商学学術院 商学部 教授

コーディネーター

在間 敬子 氏 京都産業大学 経営学部 教授

P 1～ 趣旨説明 在間 敬子 氏

P 4～ 講演1. これからの大学とウェルビーイング(個人、組織、社会、地球)
飯塚 まり 氏

P13～ 講演2. これからの大学・研究者とアカデミック・コミュニケーション
谷本 寛治 氏

第26回FDフォーラム

あらためて大学とはなにか ～コロナ禍を超えて新しい時代へ～

2021.2/20(土)・21(日)・27(土)・28(日)

第4分科会

2021年 2月 27日(土) ㊦ 10:00~12:00

これからの大学と大学教職員に求められる課題

アフターコロナ、ウィズコロナの社会では、従来とは異なる観点から、よりよい働き方、よりよい暮らし方、よりよい経済・社会のあり方が求められるようになっていく。それに対して大学はどのように応えていくのだろうか。

本分科会では、**ウェルビーイング**と**アカデミック・コミュニケーション**という2つのキーワードを提示する。

分科会ではまず、飯塚まり先生に、これからの社会に求められるウェルビーイングと、ご自身が実践される授業についてお話しいただく。ウェルビーイングは「幸福や健康」を指すが、個人だけではなく組織や社会の視点も含む概念である。

次いで、谷本寛治先生に、アカデミック・コミュニケーションの観点から、よりよい大学教育のあり方についてお話しいただく。アカデミック・コミュニケーションは研究者育成という観点だけではなく、あらゆる大学人に向けたリテラシーである。最後に、両者のお話を踏まえて、今後のよりよい大学教育のあり方について議論する。

飯塚 まり 氏

同志社大学大学院ビジネス研究科 教授Well-being研究センター長。
専門は経営戦略論、組織・人材開発、ビジネス倫理。
スタンフォード大学MBA、博士(人間・環境学)(京都大学)。
INSEAD(仏)、チュービンゲン大学(独)他、客員研究員。
アジア各国での経営者トップセミナーを始めとして、多国籍企業や50か国以上
出身のMBAを対象とした豊富な教育経験を有する。
米国NLP協会準トレーナー。グーグル発のマインドフルネスリーダーシップ
(Search Inside Yourself)の公式トレーナー。
日本グローバルコンパクト・アカデミックネットワーク(J-GCAN)会長。
主著に『進化するマインドフルネス: ウェルビーイングへと続く道』(創元社)等。

谷本 寛治 氏

早稲田大学商学学術院商学部 教授。一橋大学 名誉教授。
専門は企業システム論、「企業と社会」論、CSR、ソーシャル・イノベーション。
経営学博士(神戸大学)。
Free University Berlin、Cologne Business School、National Taipei University、
Parahyangan Catholic University等において客員教授。
経済産業省、厚生労働省、環境省、国土交通省、内閣府の審議会・委員会の委員、
公認会計士試験委員等を歴任。
これまで数十社の企業にアドバイスやCSR報告書の第三者意見書等を提供。
学会「企業と社会フォーラム (JFBS)」創設・会長。
主著に『研究者が知っておきたいアカデミックな世界の作法—国際レベルの論文
執筆と学会発表へのチャレンジ』『企業と社会—サステナビリティ時代の経営
学』(いずれも中央経済社)等。

本分科会のプログラム

10:00 趣旨説明 在間 敬子(コーディネータ)

10:05 講演1. 飯塚 まり 氏
これからの大学とウェルビーイング（個人、組織、社会、地球）

10:45 講演2. 谷本 寛治 氏
これからの大学・研究者とアカデミック・コミュニケーション

11:25 質疑応答 講演者とフロアから

11:55 まとめ

これからの大学とウェルビーイング（個人、組織、社会、地球）

飯塚まり

同志社大学 ビジネス研究科 教授

同志社大学 ウェルビーイング 研究センター センター長

ウェルビーイング

- ▶ ウェルビーイングは、身体的、心理的、精神的、社会的に良好な状態であること、幸福、をさします。病気ではないという消極的な意味の健康や、単に流れゆく情動としての幸福ではなく、生まれてきてよかったとしみじみと感じるような幸福感をも含む概念です。また、個人の幸せのみならず、個人の属するコミュニティ（例えば、学校、企業、社会）における幸せをも含みます。
- ▶ このウェルビーイングの概念は、禅や茶道など、日本や京都がはぐくんできた文化の多くにもつながるものです。また、ウェルビーイングは、いま、世界的に大きな話題となっているSDGs（持続可能な開発目標）やサステナビリティの中心的な思想にもつながっています。
- ▶ このセッションでは、コロナ禍の中で重要性の高まっている大学、大学院（ビジネススクール）における、ウェルビーイング教育について、以下のキーワードから考察、報告を行います。

ご容赦いただきたい点

- ▶ 心理学者ではない
- ▶ 精神科のお医者様でもない
- ▶ あくまでも経営学
 - ▶ 経営学はゴチャマゼ学（応用）
 - ▶ 経済学、政治学
 - ▶ 社会学
 - ▶ 心理学

今日のお話のバックグラウンド

- ▶ 経営学者として General Management
 - ▶ 経営戦略
 - ▶ 「外部環境、内部環境 SWOT」
 - ▶ 経営戦略としてのESG、SDGs
 - ▶ Business and Society
 - ▶ 資本主義とは何か？株主資本主義 → ステークホルダー資本主義？
 - ▶ 人権と環境、ヒューマニスティックマネジメントの思想、
 - ▶ ウェルビーイング
 - ▶ 組織論
 - ▶ 「組織なくして戦略なし、戦略なくして組織なし」
 - ▶ イノベーション
 - ▶ 心理的安全性、チーム、個人の成長
 - ▶ リーダーシップ（全員）
 - ▶ ウェルビーイング

今日のお話のバックグラウンド 飯塚について

▶ 心理学？

▶ Search Inside of Yourself 公認指導員

- ▶ Google
- ▶ 瞑想時間等
- ▶ 約1年間 4回渡米

▶ NLP トレーナー

▶ 学部心理学

- ▶ プロではないので、心理学部（臨床心理学、カウンセリング室）の教員、社会学部の教員（瞑想関連著書多数、ホリスティック教育）と組んでいる

コロナ禍のもたらしたもの 1

▶ 2000人テレワーク調査の副産物

- ▶ 2020年5～6月
- ▶ 3社 （IT,コンサル、製造業）
- ▶ 2000人
- ▶ コロナのストレス
- ▶ ウェルビーイングの向上 （満員電車、『呪縛』からの解放？）
- ▶ 社会的な意識の高まり

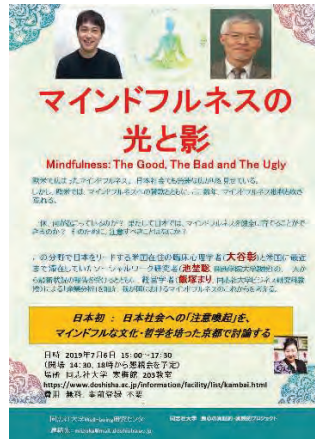
コロナ禍のもたらしたもの 2

- ▶ 死と直面する生
 - ▶ 人生の意義
- ▶ 籠る
 - ▶ 内面の旅
- ▶ 人類感
 - ▶ 大きな物語の一部
 - ▶ SDGsなどのストーリーの一部
 - ▶ 地球という船（ローマ教皇）

コロナ禍のストーリーの中の大学、企業などの組織

- ▶ ネル・ノディングス 「幸せのための教育」等
- ▶ 大学では？ エール大、ハーバードやスタンフォードでは
- ▶ 企業では？ Google, Apple, Microsoft, Amazon, etc. の見つけたもの
- ▶ 同志社大学、同志社ビジネススクール（社会人～日本語、英語MBA）の実践
- ▶ 批判、注意点、今後の課題と日本（京都）の役割

危険性、注意点



実は私たちの文化の中にある。。



授業の実践 1

▶ 大学院 （ビジネススクール）

▶ 日本語MBA

- ▶ 社会人 20代～70代 働き盛り
- ▶ 達成、学習、上昇志向
- ▶ 人生を変えよう（中年の危機手前？）
- ▶ 2020年は対面（一部ズーム）
- ▶ 15名
- ▶ 180分×8週間 16コマ

▶ 英語MBA

- ▶ 世界各国からの留学生 （20ヶ国、アメリカ、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、ラ米）
- ▶ ズーム（まだ実際に会っていない世界各地にいる学生）（時差あり）
- ▶ 英語
- ▶ 30名
- ▶ 180分×8週間 16コマ

授業の実践 2

▶ 学部生 （混合）

- ▶ 200名+20名
- ▶ 複合領域
- ▶ 京都大学コンソーシアム
- ▶ スタートは、コーチング会社からの呼びかけ
- ▶ 大学でコーチングを教えたい
- ▶ 半分・半分

注意点 1 事前準備

- ▶ TA、SA
 - ▶ 手厚く
 - ▶ 「気持ち」
 - ▶ 「いま、ここ」の集中
 - ▶ 思いやり
 - ▶ (講師の欠点を補ってくれる人)

注意点 2 事前準備

- ▶ メンタル的につらい方や、人生の危機にある方には、できるだけとらないでもらう
 - ▶ シラバス
 - ▶ 最初の授業での注意

授業内容についての詳細

- ▶ 近日、同志社Well-being研究センターHP等にて公開予定なので、授業内容についてのスライドは省略。
- ▶ 「大学におけるWell-being教育の可能性」

ぜひご指導を賜りたいので、
ご連絡ください

miizuka@mail.doshisha.ac.jp

第26回京都FDフォーラム

第4分科会

2021.2.27

これからの大学・研究者と アカデミック・コミュニケーション

早稲田大学 商学学術院 商学部

谷本寛治



Waseda
University

©Kanji Tanimoto@Waseda University 禁無断複写転載



- 早稲田大学商学部教授、経営学博士(神戸大)
一橋大学名誉教授
Free University Berlin、National Taipei University、
Cologne Business Schoolほか客員教授

- 主な研究テーマ:
企業と社会、CSR、サステナビリティ経営、ソーシャルイノベーション

■ 学会等委員

- ・学会「企業と社会フォーラム」(JFBS) 会長
- ・社会・経済システム学会前会長
- ・International Conference on Sustainability & Responsibility 運営委員 など

Journal編集委員

- ・Corporate Governance: the international journal of business in society, Associate Editor
- ・Sustainability Accounting, Management and Policy Journal, Editorial Board
- ・International Journal of Corporate Social Responsibility, Editorial Board
- ・Journal of Business Administration, Editorial Board, など



本日の流れ

これからの大学・研究者とアカデミック・コミュニケーション
(人文・社会科学分野)

1. アカデミック・コミュニケーション
2. 大学の国際化、研究者の国際化
3. 国際競争力の低下
4. 変化へのチャレンジ

1. アカデミック・コミュニケーション

- 日本の「学界世間」(of by for日本人)をこえて、
グローバルなアカデミック・コミュニティにコミットし、
Journalに論文を出版したり、学会で発表すること、さらに
そこでの議論に加わり、研究・教育の役割を担うこと:

- ・Journalのエディター、レビューアー
- ・学会やカンファレンスの(運営)委員、国際機関の委員
- ・共同研究、国際プロジェクトへの参画
- ・ポスドク・サバティカルの研究受入れ
- ・招聘教授等の役割を担う
など



1. アカデミック・コミュニケーション

『研究者が知っておきたいアカデミックな世界の作法—国際レベルの論文執筆と学会発表へのチャレンジ』中央経済社（2021年1月）



- 0 アカデミック・コミュニティへの招待 0-1 広い世界へ 0-2 本書の背景 0-3 本書の構成
- 1 あらためて大学とは 1-1 オープンな場としての大学 1-2 加速する大学国際化の流れ
1-3 研究者の流動性 1-4 国際ランキング
- 2 大学教授の仕事—研究・教育・大学運営・社会貢献 2-1 研究 2-2 教育 2-3 大学運営
2-4 社会貢献 2-5 日本の大学のアドバンテージ
- 3 研究とは 3-1 誰に、何を、なぜ、どのように 3-2 研究者に求められること 3-3 研究費
3-4 研究者の位置づけ
- 4 論文の書き方 Journalへの投稿 4-1 Publish or Perish? 4-2 学術論文の要件
4-3 学術論文によく見られる問題点 4-4 学術論文を出版するプロセス 4-5 良い論文とは
- 5 学会やセミナーでの研究発表 5-1 カンファレンスでの研究発表 5-2 研究発表のポイント
5-3 大学のセミナーでの研究発表
- 6 アカデミック・コミュニティにおける活動 6-1 アカデミック・コミュニティにおける活動
6-2 エディターの仕事 6-3 サバティカル 6-4 客員教授
- 7 変化へのチャレンジ 7-1 変化を恐れない 7-2 適応力への課題 7-3 何のために 7-4 ブレイクスルー

1. アカデミック・コミュニケーション



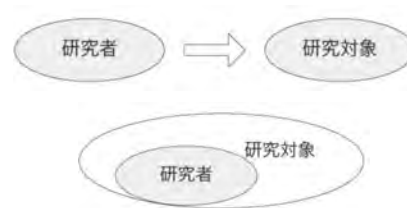
- 狙い
 - ① Journal論文の書き方、国際会議などでのプレゼンのガイド
 - ② グローバルな場でネットワークを広げ、役割を担っていくためのガイド
 - ③ 研究者としてのチャレンジ、成長めざすガイド
- 対象
人文・社会科学系の若手・中堅の研究者: Early and Mid-Career Researchers (EMCRs)
- 背景
人文・社会科学系で卒論・修論・博論の書き方ガイドブックはたくさんあるが、Journal論文の書き方、レビュー・プロセス、Academic Writing、国際会議での発表のガイドなどはあまりない → 理系とのニーズの差
- 動機
自己反省と経験から

2. 大学の国際化、研究者の国際化

- 叫ばれる大学の国際化「グローバル化戦略」
(留学生呼び込み、英語での授業、TOEIC、短期留学...)
- 語られる「大学論」、どういう立場・視点から
(歴史・文明史、経営・ガバナンス、グローバル競争...)



抜け落ちている課題 → **研究者個人の国際化**



2. 大学の国際化、研究者の国際化

- 「グローバル人材」の育成推進
(→外国語によるコミュニケーション能力、海外文化・歴史、価値観の差への柔軟な対応、
既成概念にとらわれずチャレンジ精神を持ち続ける、日本文化・歴史に関する知識)

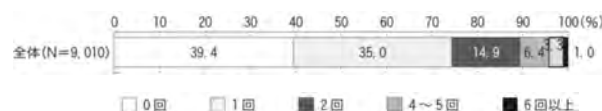
→ **誰が担うのか?**

- 日本の「学界世間」(of by for日本人)をこえて 発信→議論

- 研究者の流動性

国立大学1.28回, 私立1.01回

国際的な移動はまだ希少



(文科省 2009, p.4)

3. 国際競争力の低下

- IMD世界競争力ランキング(2020) 日本:34位(63か国中)
IMDの世界人材ランキング(2020)

項目	順位(63か国中)
経営幹部の国際経験	63位
有能な経営幹部がいる	61位
大学教育が競争経済のニーズにマッチしている	52位
語学力が企業のニーズにマッチしている	62位
15歳児の能力評価(PISA学習到達度調査)	5位

- 大学ランキング
ビジネススクール・ランキング
- 日本人のアカデミック・コミュニティにおけるプレゼンスの相対的低さ

4. 変化へのチャレンジ

- 大学教員の仕事
 1. 「研究」 研究があつて教育、採用・昇進の基準 研究のレベル
 2. 「教育」 授業の成り立ち、〈知識の伝達〉→〈考え方を学ぶ〉
どのような人を育てるのか:責任ある(グローバル)リーダー・・・理念-カリキュラム-授業
AACSB:2013改訂CSR、2020改訂Social Impact
 3. 「大学運営」 大学経営, 学部運営にかかわる仕事、評価と給与
 4. 「社会貢献」 政府の審議会・委員会、企業やNPOの役員、啓蒙書、講演など

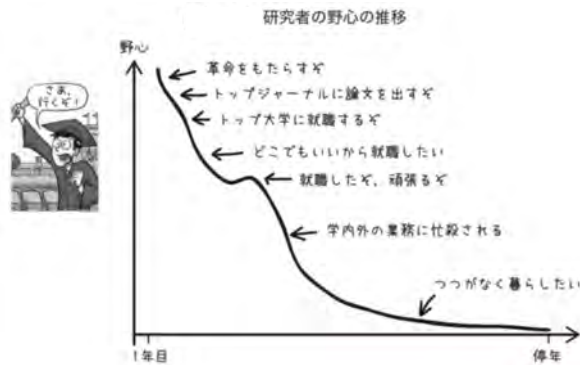
4. 変化へのチャレンジ

- 何のために研究者になったのか？ 何のために研究するのか？

→ それぞれの専門領域における研究を通して、学会や、
経済・社会の課題解決に貢献し、成長していくこと..

Don't forget your first resolution !

- 研究者の野心の推移



出所: <http://phdcomics.com/> より一部修正

4. 変化へのチャレンジ

- ✓ 研究者はリスクを取らないで何かをしなかった結果、成長する機会を失ってしまう
リスクを考えるべきだ(島岡、2009)
- ✓ Self-Discipline: the ability to make yourself do things you know you should
do even when you do not want to (Cambridge Dictionary)

- 異文化コミュニケーション・適応力

(1) 言葉、(2) 生活習慣、(3) 人とのつきあい方、(4) 食事

*日本能率協会の新入社員意識調査(2019): 海外転勤したくない人7割 → 「治安や食生活、
衛生面での不安」、「言葉の不安」、「家族や友人、恋人と離ればなれになってしまう」

*世界中の非英語圏からアメリカに来る研究者の中で、英語でのコミュニケーションに苦勞する
タイプ(島岡2009) → 日本人、30歳以上の男性、立食パーティーが苦手

- 制度的支援も必要
- 日本の大学教員のアドバンテージは？



Thanks - Questions

Professor Dr. Kanji Tanimoto

School of Commerce,
Waseda University



<https://tanimoto-office.jp>
k.tanimoto@tanimoto-office.jp

President of JFBS
(Japan Forum of Business and Society)



<https://j-fbs.jp>